

### 3 ワイエルシュトラスの二重級数定理・ベキ級数

岩井雅崇 2023/04/11

以下断りがなければ,  $\Omega$  は  $\mathbb{C}$  の領域 (連結開集合) とし,  $\mathbb{D} = \{z \in \mathbb{C} | |z| < 1\}$  とする.

#### ワイエルシュトラスの二重級数定理に関する問題

問 3.1 滑らかな曲線  $C$  上の連続関数列  $f_n$  が  $f$  に一様収束すれば,  $\lim_{n \rightarrow \infty} \int_C f_n(z) dz = \int_C f(z) dz$  であることを示せ.<sup>1</sup>

問 3.2  $\mathbb{D}$  上の正則関数列  $\{f_n\}_{n=1}^{\infty}$  と正則関数  $f$  であって,  $\mathbb{D}$  の任意のコンパクト集合上で  $f_n$  は  $f$  に一様収束するが,  $\mathbb{D}$  上では  $f_n$  は  $f$  に一様収束しない例を一つ構成せよ.

問 3.3 \* 次を満たす例を構成せよ.<sup>2</sup>

- (a)  $\{f_n\}_{n=1}^{\infty}$  を  $(0, 1)$  上の  $C^\infty$  級関数列で  $f$  を  $(0, 1)$  上の  $C^\infty$  級関数.
- (b)  $(0, 1)$  の任意のコンパクト集合上で  $\{f_n\}_{n=1}^{\infty}$  が  $f$  に一様収束する.
- (c)  $\{\frac{df_n}{dx}\}_{n=1}^{\infty}$  は  $(0, 1)$  のあるコンパクト集合上で  $\frac{df}{dx}$  に一様収束しない.

#### ベキ級数に関する問題

問 3.4 • 次の問いに答えよ.

- (a) 正則関数は  $C^\infty$  級関数であることを示せ.
- (b)  $\mathbb{R}$  上の  $C^\infty$  級関数  $f$  で原点の周りでベキ級数展開できないものを一つ構成せよ.

問 3.5 •  $f(z)$  を半径  $R > 0$  の円盤  $D_R = \{z \in \mathbb{C} | |z| < R\}$  上の正則関数とする. 任意の  $0 < r < R$  について, 収束半径  $r$  以上のベキ級数  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n z^n$  で  $D_r$  上で  $f(z) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n z^n$  となるものが存在することを示せ.

問 3.6  $\mathbb{C}$  上の正則関数  $f(z)$  とする. ある正の実数  $A, B$  と自然数  $k$  があって, 任意の  $z \in \mathbb{C}$  について  $|f(z)| \leq A|z|^k + B$  となるならば,  $f(z)$  は高々  $k$  次の多項式であることを示せ.

問 3.7  $f(z) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n z^n$  を半径  $R > 0$  の円盤  $D_R = \{z \in \mathbb{C} | |z| < R\}$  上の正則関数とし,  $0 < r < R$  とする. 次を示せ.

- (a)  $|a_n| \leq \frac{1}{2\pi r^n} \int_0^{2\pi} |f(re^{i\theta})| d\theta$
- (b)  $\sum_{n=0}^{\infty} |a_n|^2 r^{2n} = \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} |f(re^{i\theta})|^2 d\theta$

<sup>1</sup>1 年次に習った定理を用いて良い. ただしどのように使ったか明記すること.

<sup>2</sup>そこまで厳密に構成しなくても良い.

## 一致の定理に関する問題

問 3.8  $f$  を  $\Omega$  上の正則関数とする. 次の問いにこたえよ.

- (a) (零点の孤立)  $f$  を定数関数ではないとし,  $a \in \Omega$  を  $f$  の零点とする. このとき  $a$  を含む半径  $r > 0$  の円盤  $D$  で,  $\bar{D} \subset \Omega$  かつ  $f$  は  $D \setminus \{a\}$  上で零点を持たないようなものが存在することを示せ.<sup>3</sup>
- (b) (一致の定理) ある空でない開集合  $U \subset \Omega$  があって  $U$  上で  $f \equiv 0$  ならば,  $\Omega$  上で  $f \equiv 0$  であることを示せ.

問 3.9 •  $\Omega$  上の正則関数  $f, g$  が  $fg \equiv 0$  を満たすならば  $f \equiv 0$  または  $g \equiv 0$  であることを示せ. また  $f, g$  が単に  $C^\infty$  級関数の場合は同様の主張は成り立つか?

演習の問題は授業ページ ([https://masataka123.github.io/2023\\_summer\\_complex/](https://masataka123.github.io/2023_summer_complex/)) にもあります. 右下の QR コードからを読み込んでも構いません.



---

<sup>3</sup>正則関数の零点は孤立しているということである. これは一変数特有の現象である.